授業科目名・形態	精神保健福祉援助演習Ⅲ　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志　藤田博章	実務経験の有無	無	開講期	４年後期
科目ナンバリング	W5-4008p				

【授業の主題】

本科目は精神障害者の生活や生活上の困難について理解し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、事例とロールプレイング等の個別指導と集団指導を通して、実践的に習得するとともに、他の科目との関連性も視野に入れつつ、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】

１．演習を通して、精神障害者の生活や生活上の困難について理解できるようになる。
２．演習を通して、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を実践的に習得できるようになる。
３．専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養できるようになる。

【授業計画・内容】

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解①：ストレングスモデル
第 3 回　実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解②：精神科リハビリテーションモデル
第 4 回　実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解③：危機介入（自殺など）
第 5 回　ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解①：ひきこもり
第 6 回　ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解②：薬物・アルコール依存
第 7 回　ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解③：高次脳機能障害
第 8 回　ライフサイクルを考慮した対象者別の相談援助の理解④：認知症の高齢者
第 9 回　事例作成
第 10 回　シナリオづくり
第 11 回　発表準備
第 12 回　事例発表〔ロールプレイ等〕・スーパービジョン①
第 13 回　事例発表〔ロールプレイ等〕・スーパービジョン②
第 14 回　事例発表〔ロールプレイ等〕・スーパービジョン③
第 15 回　まとめ（事例検討）

【授業実施方法】

基本的には演習形式とする。本演習は具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を行う参加型授業形態で実施する。

【事前・事後学習】

毎回、テキストを中心に 30 分の予習を行い、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞等で報じられる精神障害者をはじめとする障害者の抱える問題に関心を持ち、また、演習内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助実習、精神科ソーシャルワーク論、精神科リハビリテーション学ⅠⅡ、精神保健福祉援助技術各論ⅠⅡ、地域福祉論ⅠⅡ、福祉行財政と福祉計画など

【教科書等】

最新・精神保健福祉士養成講座【専門科目】7　ソーシャルワーク演習（精神専門）中央法規 2021 年版

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（ワークシートなど）70%、グループ発表等への参加状況 30%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士としての課題は精神障害者の生活問題に対応するために社会的復権と人権擁護の役割を担い、社会復帰を妨げているといわれる障壁を取り除き、地域社会の体制を整えることが挙げられる。利用者との「かかわり」を大事にする専門職の実践への準備ととらえて演習に臨むこと。